

リーディングDXスクール事業【実践事例】

橿原市立白檀中学校(奈良県)

【取組内容①】

「朝の10分」で基礎学力向上へ
 ～ 一人ひとりが、今自分に必要な学習を選択 ～

中学2年

朝学習

- ・毎朝10分間の「ドリルタイム」を設定。
- ・国英数社理から週ごとに教科を決め、ドリルソフトの問題に取り組む

実践のポイント

○自分に必要な問題に集中できる

- ・朝の10分学習タイムではその週に取り組む教科だけを設定。
- ・生徒は個々に「今自分に必要な学習は何か」を考えるように変化。
不安な単元に繰り返し取り組む生徒やどんどん先に進む生徒など、10分間の内容は生徒個々に違う。
- ・自分が解きたい問題、やるべき問題に集中できるようになった。

○取り組み状況を個々に確認し、声かけに活かす

- ・テスト前であればテスト範囲に沿った問題に取り組んでいるかどうか、また誤答が多い生徒は誰かなど、履歴データから確認でき、声かけや個別指導に繋げることができた。
- ・ドリルも「先生が見てくれている」と気づかせてあげることもポイントである。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

橿原市立白檀中学校（奈良県）

【取組内容②】 GIGA端末を使ってルートを検索し、行動計画をつくる

中学2年

大阪方面校外学習（班活動）

～ 大阪市内6箇所の施設の中から4箇所を選び見学する ～

○クロームブックを使って乗車する電車を決める

この校外学習では班活動を軸にしており、「班ごと目的地を決め時間通りに到着できるよう計画を立てる」を目的の1つにしている。見学場所は、大阪市内の有名施設6箇所から4施設を選び順番を決める。出発地点は、橿原神宮前駅。昼食場所（大阪城or 下水道科学館）と指定場所のうち、3箇所以上を見学して、再び橿原神宮前駅に戻ってくるよう班ごとに話し合いを繰り返した。電車の時刻はクロームブックを使い調べ、班で相談して行動計画を立てた。

○生徒同士で教え合い、情報交換を繰り返し完成

「電車の時刻調べ」や「乗車する電車」、「目的地までのルート」など、行動計画をつくるには様々な項目を決めていく必要がある。生徒達は、検索サイトや検索方法なども自分たち同士で尋ねたり、聞いたり、教えたりしながら、次第に自分たちで計画を立てていくようになり、各自の考えやアイデアなども出し合い進めた。例えば、使用する路線により到着駅も時間も違ってくる。「無理のない計画はどっち？」などと互いに情報を交換し、情報を共有しながら各班で行動計画を作成していった。

時刻	場所	行動手段
8:11着	橿原神宮前駅	②③ 橿原線(普)新田辺行 3番線
8:17着	大和八木駅	②③ 大阪線(普)五位堂行 3番線
8:28着	五位堂	②③ 、 ④ 大阪上本町行
8:31着		
8:55 着	富雄駅	JR 環状線内回り 1番線 (乗換)
9:02 着		JR 関空快速 関西空港方面 出口:西口 徒歩14分
9:13着	桜宮駅	
9:16分着		
9:30着	造幣博物館	徒歩7分
10:50 出		
10:57着		JR 東西線区間快速 2番口
		②③ 田線 合計 0 円



リーディングDXスクール事業【実践事例】

橿原市立白檀中学校（奈良県）

【取組内容⑤】 端末活用の事例を共通し、教職員の知識やスキルを上げる

目標

- ・学ぶ機会（職員研修）を作り、端末活用の事例を共有する
- ・教職員の知識やスキルを上げる
- ・教職員が一丸となって取組み（実践など）を進める

○職員研修

LIXのアドバイザーとして講師を招き、個別化が成立する取組や可視化する手法、効果的な活用法など具体例にもふれ研修を深めました。特に研修時ではチャットスペースを使用し、その効果も体験することが出来ました。また、便利な機能としてスプレッドシートを利用した共同編集についても実践例を学ぶ事ができました。



○先進校との交流

先進校の協力を得て、ICT合同研修会をリモートで開催しました。先進校の実践を発表して頂いた後、教科グループにわかれ、取組んでいる内容や成果、今の課題、悩み事など、お互いに意見を出し合い交流を深めることができました。今後も学校間の交流を継続していくことを互いに確認しました。



○校内授業研究発表会

3年生の英語の授業を公開してもらい、授業研究を行いました。授業では、導入にクイズアプリを、学習支援ソフトやスプレッドシートを取入れた学習を取入れており、その実践を参観しました。後の研究協議では「リスニングが自分のペースで聞き直しが出来るのがいい」「グループ学習を並行すれば補えるのでは」などたくさんの意見が出され、良い研修となりました。

